

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第12回源流管理分科会

2008年2月21日(木) 16:00~18:00
(社) 日本ロジスティクスシステム協会 小会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) チェックリストについて

2) アウトプットについて

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第11回分科会以降の審議経過と本日の検討事項
- 資料2 : グリーンロジスティクスチェックリスト (Ver. 0.9_4)
- 資料3 : 本日検討すべき事項
- 資料4 : アウトプット (案) (チェックリストのぞく)
- 資料5 : ロジスティクス環境会議 今後の予定 (案)
- 参考資料1 : 第11回源流管理分科会 議事録

以 上

第11回分科会での審議結果と本日の検討事項

1. 第11回分科会での審議内容（確認）

1) 評価軸に関する検討

（主な結果）

- 評価軸の確定（15項目）
- チェック項目そのものの削除（2項目）
- 行政支援策の項目を追加（1項目（19））

2. 本日の検討事項

1) チェックリストの最終確認

2) アウトプットの確認

以 上

グリーンロジスティクスチェックリストVer. 0.9.4

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
方針 1.1 全社的な取り組み ①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	左記に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へも積極的に公表している。		・トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(P17~21)
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針は存在しない。	ロジスティクス分野における方針を策定中である。	ロジスティクス分野における方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。		
	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。	左記に加え、各段階で、定期的に会合が開催されている。		・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P32~34)
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない。	左記の計画を策定中である。	左記の計画は策定しているが、策定部門以外は把握していない。	左記の計画を策定し、全社的に周知徹底している。		・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P20~21)
	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練は実施していない	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練実施に向けて、検討している。	ロジスティクス関係部門を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、ロジスティクス関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。		・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P34~36) ・グリーンロジスティクスエキスパート講座、グリーン物流基礎コース(JILS) http://www.logistics.or.jp/education/seminar/lecture.html
	6	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。	海外拠点、国際物流については、実施有無含めて全く把握していない。	海外拠点、国際物流については、環境対応を実施していない。	海外拠点、国際物流について、事業所ごとに環境対応を進めている。	海外拠点、国際物流について、会社として統一的に環境対応を進めている。		
	7	ロジスティクス分野において、法令遵守(各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。	自社が遵守しなければならない法令が整理されていない、もしくは整理されているかどうか不明である。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育は行っていない。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知・教育を実施している。	左記に加えて、定期的な内部監査等でチェックしている。		・CGLホームページ http://www.logistics.or.jp/green/laws.html
	8	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	ISO14000sを知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	ISO14000sの取得に向けて、検討している。	一部の事業所でISO14000sを取得している。	全社でISO14000sを取得している。		・日本工業標準調査会 ホームページ http://www.jisc.go.jp/mss/ems-14001.html
	9	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	エコアクション21を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	エコアクション21の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でエコアクション21を取得している。	全社でエコアクション21を取得している。		・財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター http://www.ea21.jp/
	10	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	グリーン経営認証を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営認証の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でグリーン経営認証を取得している。	全社でグリーン経営認証を取得している。		・交通エコロジー・モビリティ財団ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/ninshou%20pamphlet%2020070620.pdf
	11	物流・ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを行っていない。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを一部の事業所で実施している。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを全ての事業所で実施している。	左記活動に積極的に取り組み、一部事業所ではゼロエミッションを達成している。		
	12	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を把握していない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目の一部は把握しているが、全て網羅できていない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を全て把握、整理できている。	左記に加え、把握、整理した内容を方針や計画の策定の際に活用している。		
	13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。	パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	パフォーマンスの算定に向けて、検討している。	パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。		・環境パフォーマンス指標～活用事例と今後の方向性(環境省) http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/shihyou/mpi1603.html ・ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法ガイドラインVer.2 http://www.greenpartnership.jp/co2/index.html

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
方	1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制	②公害の防止・軽減	14 包装に係る環境パフォーマンスを算定している。	パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	パフォーマンスの算定に向けて、検討している。	パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。	・環境パフォーマンス指標～活用事例と今後の方向性(環境省) http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/shihyou/mpi1603.htm ・2004年度環境調和型ロジスティクス調査報告書(JILS) http://www.logistics.or.jp/search/chart/lems/pdf/04lems_5.pdf
			15 グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる	自社単独での取り組みであり、グループ企業や取引先、業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業と共同で取り組んでいるが、取引先や業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び取引先と共同で取り組んでいるが、業界団体とは連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び取引先と共同で取り組むとともに、業界としての環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいる。	・グリーン物流パートナーシップ 推進事業 http://www.greenpartnership.jp/ ・環境自主行動計画(社団法人日本経済団体連合会) http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/vape/index.html
			16 協力会社(備車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。	協力会社に対し、環境配慮のための育成、指導は行っていない。	協力会社に対する環境配慮のための育成、指導の方針、計画等を作成中である。	一部の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。	半数以上の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。	・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書 エコドライブガイド
			17 物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。	物流拠点の周辺住民を意識した取り組みは、特に実施していない。	敷地外の清掃活動等は行っているが、周辺住民と話し合いを行ったことはない。	周辺住民への話し合いを実施したことはあるが、継続的な活動には至っていない。	物流拠点の周辺住民と定期的にコミュニケーションを図り、環境負荷低減に努めている。	
			18 ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。	環境に対する取り組みをまとめた環境報告書や環境レポート等を作成していない。	環境報告書や環境レポート等を作成しているが、ロジスティクス分野に関する記載はない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野に関する記載を行っているが、環境負荷に関する定量的な記載は行っていない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野での環境負荷について、定量的な記載を行っている。	・環境報告ガイドライン2007年版(環境省) http://www.env.go.jp/policy/report/h19-02/index.html ・環境ロジスティクス・DB(国土交通省) http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/kankyolugi/index.html
			19 グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。	行政等の各種支援策について、把握していない。	行政等の各種支援策を把握しているが、具体的に応募の検討までは行っていない。	行政等の各種支援策を把握するとともに、実際に応募の検討を行っている。	行政等の各種支援策を積極的に活用している。	・グリーン物流パートナーシップ 推進事業 http://www.greenpartnership.jp/
		その他						
		①製品開発	20 輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。	輸送機関の大気汚染について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	輸送機関の大気汚染の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	・自動車NOxPM法
			21 騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。	騒音・振動について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	騒音・振動の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	・騒音規制法 ・振動規制法
			22 水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。	水質汚濁について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	水質汚濁の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	・水質汚濁防止法
		②生産体制	23 輸送効率向上と包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発は実施していない。	一方のみの視点であり、双方を考慮した製品開発には至っていない。	双方を考慮した製品開発を実施しつつある。	双方を考慮した製品開発を積極的に進めている。	
			24 物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	製品評価を実施していない、もしくは実施しているかどうか把握していない	製品評価は実施しているが、ガイドライン等に、物流に関する記載がない。	一部の製品に関して、物流に関する記載が含まれたガイドライン等を利用し、製品評価を実施している。	すべての製品に関して、物流に関する記載が含まれたガイドライン等を利用し、製品評価を実施している。	・製品アセスメント…生産者が生産を行う前に製品の生産・流通・使用・廃棄・再資源化・処理・処分の各段階における安全や資源、環境への影響を評価し、必要に応じて製品設計等の変更を行い影響の軽減化を図ること
			25 積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といった検討は行っていない。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門と検討を進めている。	左記の結果、一部の工場で生産体制の見直しが図られている。	左記に加え、さらなる効果を上げるため、生産部門とともに継続的に検討を進めている。	・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書 II. モーダルシフトWG
			その他					
	1.3 商取引の適正化	①ロットの適正化	26 取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。	取引先の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案を行ったことがない。	取引先に対し、取引基準の設定提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先へ受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へ広げべく積極的に進めている。	・CGL 取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書 http://www.logistics.or.jp/green/report/06_report.html#syoushigen2006

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等		
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている				
	27	取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。	取引先だけではなく、自社営業部門に対しても、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行ったことがない。	取引先に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		・CGL 取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書 http://www.logistics.or.jp/green/report/06_report.html#syoushigen2006		
		その他								
	②頻度・時間の適正化	28	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。	取引先だけではなく、自社営業部門に対しても、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を行ったことがない。	取引先に対し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		・JILS 2007年度物流合理化賞 「チェーン販売店との協働による、環境配慮型集中配送の実現」(ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) ビジョンケアカンパニー) http://www.logistics.or.jp/fukyu/prize/gourika.html	
			29	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。	取引先だけではなく、自社営業部門に対しても、輸送量のピーク期間を移動させる提案を行ったことがない。	取引先に対し、輸送量のピーク期間を移動させる提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。			左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。
		30	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。	入出荷時間を定刻化しておらず、車両の待機時間はバラバラである。	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間短縮を検討している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮しようとしていてる。	入出荷時間ならびに車両の接車時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。			
			その他							
	③返品・回収の適正化	31	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約(納品条件)の見直し等の施策を実施している。	販売最優先体質のため、返品抑制対策を実施できていない。	返品抑制に向け、実施可能な施策に関して、営業部門と検討している。	左記の結果、一部販売先に対し、返品抑制策を実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。			
			その他							
	1.4 ネットワーク設計	①立地戦略	32	環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。	コストやサービレベルのみが検討項目となり、環境負荷については考慮していない。	環境負荷についても検討項目の1つとするべく、検討を行っている。	拠点の新設や見直しの際に、環境負荷も考慮に入れはじめている。	環境負荷を考慮に入れた拠点配置に積極的に取り組んでいる。		・物流総合効率化法 http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/logistics_efficiency_guide_0703.pdf ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業 http://www.greenpartnership.jp/
				その他						
②モーダルシフトの推進		33	輸送に鉄道を利用している。	鉄道を利用しておらず、検討も行っていない。	鉄道利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているがモーダルシフト化率(企業全体)では5%未満である。	鉄道を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)では15%未満である。	鉄道を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)は15%以上となっている。		・CGL ロジスティクス源流管理マニュアルver.2 モーダルシフト推進チェックシート・資料集 http://www.logistics.or.jp/green/report/06_report.html#genryu2006 ・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書	
			34	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。	船舶を利用しておらず、検討も行っていない。	船舶利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているがモーダルシフト化率(企業全体)では5%未満である。	船舶を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)では15%未満である。			船舶を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)は15%以上となっている。
1.5 情報化・標準化	①情報化の推進	35	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。	実需要に即応した体制、又は需要予測の仕組みがなく、無駄な生産、在庫、輸送が発生している。	部門単位の取り組みのため、全社としての無駄な生産、在庫、輸送削減に至っていない。	関係部門の連携による全社的な実需要即応体制や需要予測の仕組みができつつあり、効果が出始めている。	左記を積極的に進め、全社的に無駄な生産、在庫、輸送削減が実現できている。			
			36	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。	配送伝票を電子化する環境(システム・ソフト・ハード)を持っておらず、全て手作業である。	配送伝票を電子化する環境が整備されつつあるが、出荷物量の部分的にしか実現できていない。	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の約半分が実現できている。(JTRNも導入検討は実施済、または部分的に導入されている)			配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の半分以上が実現できている。(JTRNも導入事例が存在する)
	37	標準輸送ラベルを使用している。	標準輸送ラベルに対する調査や検討は行われていない、もしくは存在を知らない。	標準輸送ラベルに対する調査は行っているが、検討には至っていない。	標準輸送ラベル導入に向けて、具体的な検討を実施している。	標準輸送ラベルを積極的に活用する方針が打ち出され、一部で導入が実現している。				
		その他								

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
	38	②スベック・サイズの標準化 ユニットロードシステムを導入している。	ユニットロードシステム(以下ULS)を考慮した活動を実施していない、もしくはULSそのものを知らない。	自社で採用可能な部分(対象)について導入に向けて検討している。	自社で可能な部分については採用済みであり、取引先にも提案を実施中である。	自社で可能な部分(対象)は採用済みであり、取引先にも積極的に提案し、実現できつつある。		・総合物流施策大綱(2005-2009)参考資料「今後推進すべき具体的な物流施策」 http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/15/151114/02.pdf
		その他						
1.6 共同化	39	①共同輸配送の実施 輸配送車両の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。	共同輸配送は実施していない	共同輸配送実施に向けて、検討している。	共同輸配送を一部で実施している。	左記に加え、他にも広げるべく積極的に進めている。		
		その他						
	40	②保管施設の共同化 物流拠点を他社と共同で利用している。	物流拠点を他社と共同で利用しておらず、検討もしていない。	物流拠点の他社との共同利用に向けて、検討している。	一部拠点において、他社との共同利用を開始している。	左記に加え、他にも広げるべく、積極的に進めている。		
		その他						

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
活 2.1 包装 の見 直し ①包装 資材の 廃止・ スリム 化	41	使用包装資材を薄肉化、軽量化(段ボール紙質の軽量化 他)している。	使用包装資材の薄肉化、軽量化に取り組んでおらず、検討も行っていない。	使用包装資材の薄肉化、軽量化を検討している。	使用包装資材の薄肉化、軽量化に取り組みつづける。	使用包装資材の薄肉化、軽量化に積極的に取り組み、実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本パッケージングコンテスト受賞事例(社団法人日本包装技術協会) http://www.jpi.or.jp/contest/contest.htm ・JILS 2007年度物流合理化努力賞 「韓国向けメタロフィルターの輸出諸経費の削減(梱包の無駄を無くし環境に優しい輸送を実現)」(三井金属鉱業株) http://www.logistics.or.jp/fukyu/prize/gourika.html ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html 	
	42	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。	小箱包装の見直しや廃止には取り組んでおらず、検討も行っていない。	小箱包装の見直しや廃止の検討を進めている。	小箱包装の見直しや廃止に取り組みつづける。	小箱包装の見直しや廃止に積極的に取り組み、実現している。		
	43	取引先と協力して、包装を省略(無包装化、簡易化)している。	無包装を実施しておらず、検討も行っていない。	無包装を検討し、取引先へ提案を行ったが、実現できていない。	取引先と協力して、包装の省略化に取り組みつづける。	取引先と協力して、包装の省略化に積極的に取り組み、実現している。		
	44	包装形態を簡素化(クレート、ハンガー輸送など)している。	包装形態の簡素化に取り組んでいない。	包装形態の簡素化に向けて検討している。	包装形態の簡素化に取り組みつづける。	包装形態の簡素化に積極的に取り組み、実現している。		
	45	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱、組み立て式包装資材など)を採用している。	未使用時も減容化できる包装資材を利用していない。	未使用時も減容化できる包装資材導入を検討している。	左記の結果、導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・JILS 2007年度ロジスティクス大賞技術賞 「リターナブル包装箱の開発と循環デリバリーシステムの導入・展開」(富士ゼロックス株) http://www.logistics.or.jp/fukyu/prize/g_prize/index.html ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html 	
		その他						
	②リ ユース・ リサイ クル	46	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。	運搬容器やパレットのリユースに関する全社的なシステム化には取り組んでいない。	リユースの全社的なシステム化の検討を行っている。	左記の結果、初歩的な(エクセルによるハンド方式など)全社システムを構築・運用している。	本格的な全社システム化(DB化)を構築・運用するとともに、業界での取組みを活発化するための活動を進めている。	
		47	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用しておらず、検討も行っていない。	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器の検討を行っている。	左記の結果、導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・JILS 2007年度ロジスティクス大賞技術賞 「リターナブル包装箱の開発と循環デリバリーシステムの導入・展開」(富士ゼロックス株) http://www.logistics.or.jp/fukyu/prize/g_prize/index.html ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html
			その他					
	③環 境負 荷の 低い 素材 の使 用	48	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。	素材選定の際に再使用、再資源化、廃棄を考慮していない。	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮した素材変更の検討を行っている。	左記の結果、素材の変更を進めつつある。	左記の結果、素材の変更に積極的に取り組み、実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・石油系から紙系へ、木系から紙系への切替え、包装資材のリサイクル活動の活発度合い ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html
		49	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。	包装資材に含まれている素材を把握せずに使用している。	再生素材を原料とする包装資材の検討をしている。	左記の結果、本格的に導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を進め、実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・素材に、再生紙40%以上、再生Pet布・繊維、生分解プラスチックなどを使用。グリーン購入法に適合した資材の採用有無 ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html
		50	有害物質を含まない包装資材を使用している。	包装資材に含まれている素材を把握せずに使用している。	納品業者の説明を通じて大まかに理解しているが、積極的な取組みには至っていない。	納品業者の説明だけでなく、文献調査等を実施し、切り替えを実施しつつある。	有害物質が含まれている素材を完全に特定し、積極的に切り替えを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・石油系材料などに有害物質が添加された材料が使用されていないこと 例: 溶剤系粘着財など ・薫じょうされた木製パレットの使用
			その他					
	④低 公害 機器 の導 入	51	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型、低公害型の包装用機器導入に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・インバータ内蔵、低騒音、低排気ガス、省エネ型低消費電力/低燃費機器などの積極導入
			その他					

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
活 2.2 輸配 計画 の見直し	①輸 配 計画 の見直し	52 現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。	環境負荷の少ない輸送手段の使用の検討を行っていない。	環境負荷の少ない輸送手段の使用を検討しているが、不定期である。	リードタイム的に可能な部分について、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。	リードタイム等の見直しを含めて、拡大に向けた検討を進めている。	・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書 II. モーダルシフトWG	
		53 配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。	物量に応じた見直しは実施していない。	物量に応じた見直しを検討している。	物量に応じた見直しを実施しつつある。	物量に応じた見直しを日単位で実施している。	・2007年度グリーン物流パートナーシップ 経済産業大臣表彰(富士通㈱、DHLサブライチエーン㈱) http://www.greenpartnership.jp/pdf/active/kaigi/06/haihu/handout6-1.pdf	
		54 輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。	過去からの成り行きのまま、拠点経由と直送の使い分けを行っており、見直しは実施されていない。	拠点経由と直送の使い分けの見直しを検討している。	拠点経由と直送の使い分けの定期的な見直しを実施しつつある。	拠点経由と直送の使い分けを月単位で見直ししている。		
		その他						
	②積 載 率 の 向 上	55 帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。	帰り荷の確保のための計画的な活動は実施していない。	帰り荷の確保のための検討を行っている。	左記の結果、一部については、帰り荷の確保を実現している。	左記に加え、求貨求車システムの導入や、荷主、納品先等への働きかけにより、帰り荷の確保に積極的に取り組んでいる。	・2007年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰(香川松下電工㈱、㈱朝日通商、日本通運㈱、日本貨物鉄道㈱) http://www.greenpartnership.jp/pdf/active/kaigi/06/haihu/handout6-2.pdf ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html	
		56 輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。	小ロットの貨物に関し、混載や共同輸送は利用していない。	混載や共同輸送の利用を行っているが、小ロットの全体の物量の5割未満である。	小ロット全体の物量の5割以上9割未満で、混載や共同輸送を利用している。	小ロット全体の物量の9割以上で、混載や共同輸送を利用している。	・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html	
		57 得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。	共同配送を実施しておらず、検討も行っていない。	共同配送実施に向け、他社との検討を進めている。	左記の結果、共同配送を実施している。	左記に加え、参加企業の増加や対象地域の拡大等、さらなる共同配送の拡大につとめている。	・CGL グリーンSC推進委員会 取引条件分科会 ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html	
		58 調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。	調達物流の効率化に向けた検討を行っていない、もしくは調達部門マターであり、状況を把握していない。	調達物流の効率化に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所でミルクラン方式を導入している。	左記の結果、半数以上の事業所でミルクラン方式を導入している。	・2007年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰(香川松下電工㈱、㈱朝日通商、日本通運㈱、日本貨物鉄道㈱) http://www.greenpartnership.jp/pdf/active/kaigi/06/haihu/handout6-2.pdf ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html	
		59 トラックの大型化・トレーラ化により、便数を削減している。	過去からの成り行きのまま、トラックの車種を選定しており、見直し検討も行ったことがない。	便数削減に向けて、大型化やトレーラ化の検討を進めている。	大型化やトレーラ化により便数削減を実施している。	左記に加え、定期的に見直しを行い、さらなる便数削減に努めている。	・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html	
		60 車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。	積載方法の工夫は行っておらず、コンテナ等の上部等に空きスペースがある。	積載率向上のための積載方法の検討を進めている。	一部の荷物の輸送に関して、積載方法の工夫による積載率向上を実現している。	荷物に応じた積載方法の工夫により、積載率向上を実現している。		
	その他							
	③点 検 ・ 整 備 ・ 安 全 管 理	61 タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。	タイヤ空気圧の測定・補充を実施していない。	タイヤ空気圧の測定・補充を実施しているが、不定期である。	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的実施している。	左記に加え、点検項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi/jirei_truck.pdf	
		62 エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。	エアフィルターの点検・清掃・交換を実施していない。	エアフィルターの点検・清掃・交換を実施しているが、不定期である。	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的実施している。	左記に加え、実施項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi/jirei_truck.pdf	
63 排気ガスの色を目視で確認している。		排気ガスの色の確認を行っていない。	排気ガスの色の確認を行っているが不定期である。	排気ガスの色の確認を定期的実施している。	左記に加え、確認項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi/jirei_truck.pdf		
その他								
④エ コ ド ラ イ ブ	64 エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。	エコドライブ活動を実施しておらず、検討も行っていない。	エコドライブ活動を実施しているが、一部事業所にとどまり、全社的な活動には至っていない。	エコドライブ活動に全社的に取り組んでいる。	左記に加え、車両別、ドライバー別の燃費、事故率等が管理するとともに、勉強会を継続的に実施している。	・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書 エコドライブガイド集 神奈川県 経営者、運行管理者のためのエコドライブマニュアル http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/taikuisitu/car/01ecodrive/0113/0113text.html		

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
⑤低公害車両の導入	65	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。	デジタコ等を導入しておらず、エコドライブ指導ができていない。	デジタコ等の導入を検討している。	左記の結果、一部事業所でデジタコ等が導入されている。	左記の結果、デジタコ等の積極的な導入が行われ、かつ出力される結果に基づくドライバー指導が実施されている。		財団法人運輸低公害車普及機構(LEVO) EMS普及事業 http://www.levo.or.jp/ems/ems00.html
		その他						
	66	クリーンエネルギー自動車を導入している。	クリーンエネルギー自動車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	クリーンエネルギー自動車導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。		・クリーンエネルギー車：CNG、ハイブリッド、LPG、電気自動車等 (社)日本自動車工業会 http://clean-energy.jama.or.jp/lineup/
	67	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。	トラックの規制及び対応について、担当者任せであり、把握していない。	規制にあわせた対応であり、前倒し導入は実施していない。	買い替え車両が発生した際には前倒しで導入している。	買い替え車両のみならず、他の車両についても計画的に前倒し導入を進めている。		国土交通省 自動車交通局 自動車排出ガス規制について http://www.mlit.go.jp/jidosha/sesaku/environment/osen/osen.htm
	68	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。		
	69	エコタイヤを導入している。	エコタイヤを導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エコタイヤ導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。		
	70	バイオマス燃料を利用している	バイオマス燃料を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	バイオマス燃料導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。		バイオマスニッポン(農林水産省) http://www.maff.go.jp/j/biomass/
	その他							

分類	No	チェック項目	実施度合い				回答欄	参考情報、関連団体等
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている		
活 2.3 荷役・ 保管・ 流通 加工の 見直し	①機器 導入・ 運用の 工夫	71	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。	省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型物流機器、低公害型物流機器導入に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
		72	効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。	稼働時間の短縮に向けた検討を行っていない	稼働時間の短縮に向け、人員配置や機器運用の検討を行っている。	左記の結果、一部事業所で実施している。	左記を他事業所にも展開するとともに、定期的に現場チェックを行い、徹底を図っている。	
		73	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている。	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択の検討を行っていない。	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を検討しているが、実施には至っていない。	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行っている。	左記に加え、現場チェックを行い、徹底を図っている。	
		その他						
	②施設 設計・ レイアウト	74	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。	過去からの成り行きのままのレイアウトであり、変更は実施されていない。	レイアウトの変更を検討しているが、実施には至っていない	レイアウトの変更を実施している。	左記に加え、在庫ABC分析の結果等を用い、常に適正なレイアウトで作業が行われている。	
		75	入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。	入荷・出荷による混雑・交錯・滞留を考慮していない。	入荷・出荷による混雑を考慮してパースの物理的もしくは時間的な分離を検討しているが、実施には至っていない。	入荷・出荷のパスを物理的もしくは時間的に分離しているが、一部事業所に留まっている。	全社的に入荷・出荷のパスの物理的もしくは時間的な分離を実施している。	
		76	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。	ドライバー控室を設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	ドライバー控室設置に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	・CGL CO2削減推進委員会 活動成果報告書 エコドライブガイド集
		77	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことがない。	電力設備、照明、空調に省エネ機器の導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	NEDOエネルギー使用合理化事業者支援事業 http://www.nedo.go.jp/ (高効率変圧器、高効率省エネ器具、逐冷式冷却システム) ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html
		78	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。	保管効率を向上させる機器導入は一部に留まり、平置きが多い。	機器の導入を行うとともに、在庫の変動による定期的な見直しを検討している。	左記の結果、在庫の変動による見直しを実施しているが、不定期である。	左記の結果、在庫ABC分析を用いて定期的な見直しを行い、高効率な保管を実現している。	
		79	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。	保冷車用のコンセントを設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	保冷車用コンセント設置に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
		80	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン(HFC)や自然冷媒を使用している。	冷蔵・冷凍倉庫で使用されている冷媒について、把握していない。	全ての倉庫でフロン類(HCFC)を冷媒として使用している。	一部倉庫で、代替フロン(HFC)や自然冷媒の導入が行われている。	左記に加え、温暖化に影響を与えない自然冷媒の積極的な導入が行われている。	・経済産業省 オゾン層等保護推進室 http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/04ozone/index.htm ・CGL 省資源ロジスティクス事例集 http://www.logistics.or.jp/green/case/index.html
		81	冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫をしている。	外気の侵入に対する方策を実施したことがなく、検討も行ったことはない。	外気の侵入への対策を検討している。	左記の結果、一部の冷蔵・冷凍倉庫でエアカーテンやドッグシェルターを設置する等実施している。	冷蔵・冷凍倉庫で、外気の侵入への対策を全社的に実施している。	・社団法人日本冷蔵倉庫協会 http://www.jarw.or.jp/
	82	冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている	冷蔵・冷凍保存が必要な商品の過剰冷却について特に気を払っていない、もしくは把握していない。	荷主と物流事業者の連携により、冷却温度の適正化について検討している。	左記の結果、一部の冷蔵・冷凍倉庫で適正な温度で保存している。	半数以上の冷蔵・冷凍倉庫で実施している。	・社団法人日本冷蔵倉庫協会 http://www.jarw.or.jp/	
		その他						
	③物量 の平準化	83	在庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。	平準化について検討していない	物流部門としては取り組んでいるが、他部門への要請は行っていない。	物流部門としては取り組んでおり、他部門との共同取組を検討中である。	左記の結果、共同で取り組んでいる。	
84		不動態在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。	在庫の実態を数値的に把握していない	在庫の実態を数値的に把握しているが、削減に向けた方策を定期的に実施していない。	在庫の実態を数値的に把握し、棚卸前など、必要に応じて処置を実施している。	在庫ABC分析の結果等を営業部門等と情報共有することにより、適正な処置を定期的に実施している。		
	その他							
④資材 削減・ 変更	85	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。	素材を考慮した購入は行っていない、もしくは担当者任せになっており組織的な基準がない。	グリーン購入の方針、基準を検討している。	グリーン購入の方針、基準を策定した。	左記に加え、グリーン購入を積極的に進め、80%以上の割合で実施している。	グリーン購入ネットワーク http://www.gpn.jp/	
	その他							

本日検討すべき事項

1. チェック項目そのものの変更につながる可能性のある設問

1) チェック項目7の括弧内

各種リサイクル法の前に、**廃棄物処理法**を入れてはどうか。

2) チェック項目11、12

チェック項目11 物流・ロジ活動 VS チェック項目12 ロジ活動

3) チェック項目43

チェック項目43 包装を省略（無包装化、**簡易化**） VS チェック項目44 **簡素化**

評価軸内の語句の混在

無包装（出来ていない、遅れ気味） VS **省略化**（まずまず、よくできている）

4) チェック項目59 トラック大型化、トレーラー化

②積載率向上の分類に入っているが、積載率向上にはつながらない。

⇒「②積載率向上等」、あるいは「積載率向上、総輸送距離削減」としてはどうか。

2. チェック項目そのものの変更につながる可能性のある設問

1) チェック項目36 まずまず、よく出来ている

⇒「EDIは導入しているが、JTRNは検討すらしていない」場合、回答に困るので括弧内を削除してはどうか。

2) チェック項目39、40 出来ていない

チェック項目39 **実施していない** VS チェック項目40 **利用しておらず、検討もしていない**

⇒ **同分類内なので、どちらかにそろえてはどうか。**

3) チェック項目46 まずまず/よく出来ている

DBシステムの大きさが判断基準と誤解される恐れ

⇒ ・まずまず…全社的なシステム化に取り組んだが、リアルタイムで管理できない
・よく出来ている…全社システムを構築し、

4) チェック項目50 遅れ気味

積極的な取り組みには至っていない

⇒ まずまず、よく出来ているで、“切り替え”という語句を用いているので、
“切り替えは行っていない”

5) 全般的事項（同義語だが、複数の表現を用いている）

出来ていない

導入（実施）してもらわず、検討も行っていない

VS 導入（実施）しておらず、検討も行ったことはない

VS 実施していない

遅れ気味

検討している VS 検討を行っている VS 検討を進めている

まずまず

一部事業所で

導入している VS 導入が行われている VS 導入されている

⇒原則として方針は決めるが、前後部分と表現をあわせる形でどうか

6) チェック項目 58 出来ていない

調達部門**マター**

7) チェック項目 85 まずまず

策定した

⇒ 策定している

3. その他

- ・一部で“られる”表現があり、“れる”表現にしてはどうか。
- ・その他欄の削除

以 上

グリーンロジスティクスチェックリスト ver.1
(案)

2008年3月11日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会
源流管理分科会

20世紀に入って展開させてきた活動様式（大量生産・大量消費型の経済社会活動）は、私たちに大きな恩恵をもたらしてきましたが、他方で、大量廃棄型の社会として物質循環の環を断ち、その健全な循環を阻害するという側面も有していました。このため、国内で毎年、約4億5千万トンという膨大な量の廃棄物が生じています。

このような状況に対応するため、21世紀の経済社会のあり方として環境と経済を統合した持続可能な発展を指向する「循環型社会」という考えが提起され、循環型社会形成推進基本法（循環基本法）が制定されています。また、この循環基本法と一体的に、資源有効利用促進法、各種リサイクル法によって、循環型社会の形成に向けた取組を推進する法的基盤が整備され、リサイクルやリユースなどが推進されてきています。しかしながら、これらは、取り組みの初期段階であり、ロジスティクスの観点を加えた環境負荷の小さなリサイクル・リユースのシステムが求められてくると考えられます。

一方、二酸化炭素に代表される地球温暖化問題については、京都議定書の目標達成は決して容易ではなく、国、地方公共団体、事業者、国民といったすべての主体がそれぞれの役割に応じて総力を挙げて取り組むことが不可欠であり、リサイクルの分野においても同じことが言えると考えられます。

これらの背景を受け、リバースロジスティクス調査委員会では、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対しての提言のとりまとめを目指し、第1期（2003年11月～2006年3月）の活動を進めてまいりました。

本報告書が、リバースロジスティクスの構築に係る関係各位の活動の一助となれば幸いです。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会
源流管理分科会 幹事
矢野 裕児、菅田 勝

源流管理分科会 活動報告

	開催日	時間	会場
第1回	2006年11月10日(金)	15:00-17:50	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第2回	2007年1月19日(金)	14:00-17:10	三田NNホール
第3回	2007年2月15日(木)	14:00-17:10	グランパーク三田
第4回	2007年4月12日(木)	16:00-18:15	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第5回	2007年5月17日(木)	16:00-18:00	芝パークホテル
第6回	2007年6月21日(木)	14:00-17:10	笹川記念会館
第7回	2007年8月8日(水)	15:00-17:05	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第8回	2007年9月21日(金)	16:00-18:25	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第9回	2007年11月9日(金)	15:30-18:15	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第10回	2007年12月6日(木)	16:00-18:05	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第11回	2008年1月30日(水)	16:00-19:00	(社)日本ロジスティクスシステム協会
第12回	2008年2月21日(木)	16:00-18:00	(社)日本ロジスティクスシステム協会

* グリーンサプライチェーン推進委員会での開催 2006年10月6日(金) 10:00-12:00

* 勉強会の開催…第1回、第2回、第3回、第5回、第8回

源流管理分科会 メンバー一覧

2月8日時点

		会社名	名前	役職
1	幹事	流通経済大学	矢野 裕児	流通情報学部 教授
2	幹事	リコーロジスティクス(株)	菅田 勝	経営管理本部 副本部長 株三愛ロジスティクス 取締役
3	メンバー	愛知陸運(株)	三浦 正	安全・CS・環境本部
4	〃	(株)エプソンロジスティクス	百瀬 次郎	物流技術部 輸送技術グループ 課長
5	〃	オリンパス(株)	藤井 幸則	環境推進部 環境プロセスグループ 課長
6	〃	鴻池運輸(株)	狩谷 順二	国内業務第1部 担当重役付部長
7	〃	センコー(株)	瓜本 純夫	ロジスティクス営業本部 通運担当部長
8	〃	大和物流(株)	水頭 宏	経営企画室 室長
9	〃	東芝物流(株)	堀口 英雄	品質・環境管理部 参与
10	〃	日本通運(株)	永井 武晴	営業企画部 課長
11	〃	プラネット物流(株)	小松 正美	エコソリューション室 シニアディレクター
12	〃	文化ファッション大学院大学	鈴木 邦成	ファッションビジネス研究科 准教授
13	〃	(株)ヤマタネ	黒坂 真一	情報本部 情報営業部 主席研究員

目次

取引の目次。要修正

I. 取引条件と環境負荷.....	1
1. 環境に影響を与える物流上の取引条件.....	1
2. 取引条件設定の背景.....	3
3. 取引条件排除が困難な要因.....	4
4. 取引条件分科会における検討方針.....	4
II. 現状分析.....	5
1. 加工食品の物流フローと検討対象領域.....	5
2. 発荷主側での出荷の現状.....	7
3. 着荷主側での入荷の現状.....	7
4. メーカー⇒卸間の物流フローの概念図.....	13
III. 課題の解決方策.....	15
1. 施策案の概要.....	15
2. 削減効果の推計.....	16
3. 課題と解決事例.....	29
4. 最終施策案と本施策実施による取引条件起因の環境負荷への影響.....	31
IV. 今後の方向性.....	33
1. 本施策で解消できない取引条件.....	33
2. 本施策の実践.....	33

資料編

第1章 グリーンロジスティクスチェックリストの解説

1. グリーンロジスティクスチェックリストの特徴

1) ロジスティクス全般にわたる活動項目を網羅

2006年4月1日施行の改正省エネ法を受け、特定荷主及び特定輸送事業者等を中心として、輸送分野におけるCO₂削減に向けた取組に主眼が置かれております。加えて、我々は、地球温暖化のみならず、資源の枯渇や廃棄物の問題といった、ロジスティクス分野が大きな影響を与えると考えられる環境問題に対しても取組を進め、循環型社会の実現に積極的に寄与することが求められております。そこで、本チェックリストでは、輸送分野のみならず、包装、荷役、保管、流通加工といったロジスティクス全般にわたる領域について、環境負荷低減のために必要と考えられる活動項目を網羅しております。

2) 取組度合いを測るツール

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動に力を入れる企業が増えてきつつありますが、全体的には「環境対応は後回し」といった企業が依然として多い状況となっております。

JILSでは、本チェックリストを用いた調査を定期的の実施いたします。具体的には、自社に取組状況をご回答いただくと、回答企業内でのポジショニング等をお返しする予定です。回答内容及び当該結果を元に、自社における今後の取組検討の際のご参考としていただくことができます。

3) 他部門、取引先を意識した項目の設定

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を進めるためには、物流・ロジスティクス部門の業務範囲内のみでの検討ではなく、自社他部門や取引先等の他社との連携によって、より効果が出ると考えられます。

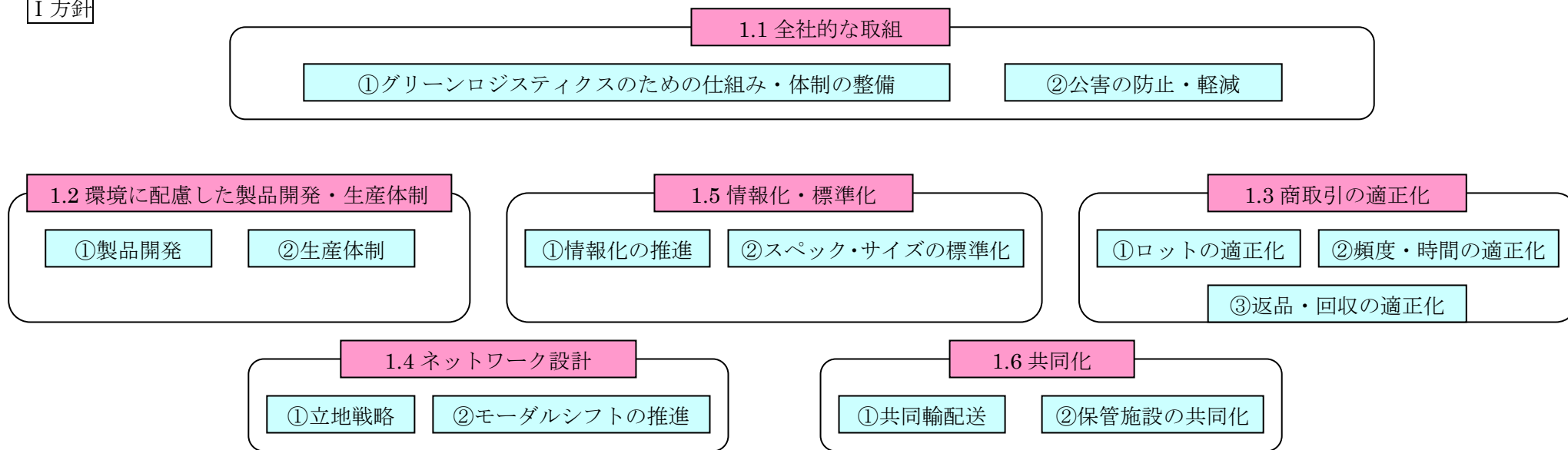
そこで、本チェックリストでは、特にロジスティクスに影響を与える「設計・生産」「営業、取引先」に関する項目も設定しております。

4) 荷主－物流事業者間のコミュニケーションツール

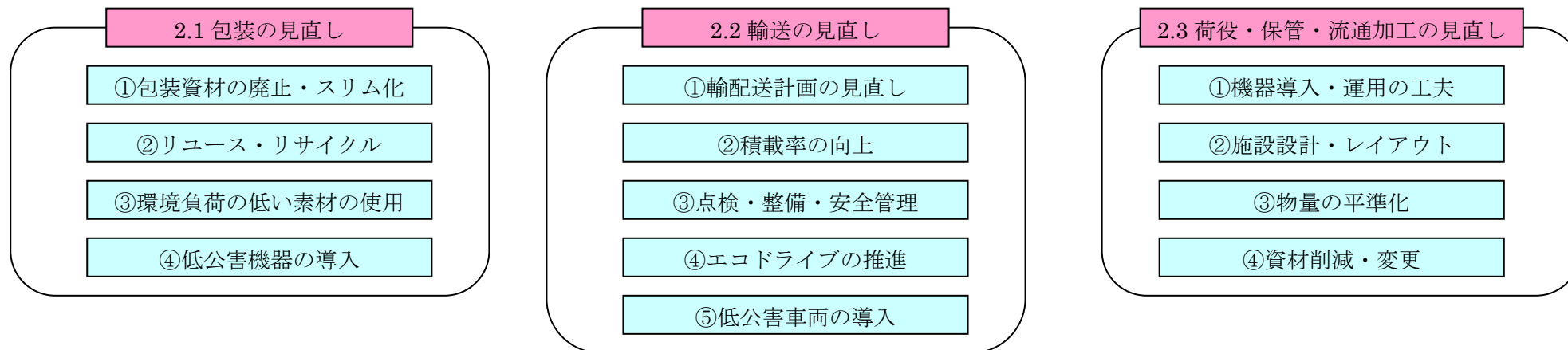
物流事業者については、荷主から物流業務全般を委託されているケースも増えていると考えられます。このようなケースにおいて、物流事業者が、当該荷主と一緒に、環境負荷低減の現状認識の共有化と、今後どのような活動を進めるべきかといった事項を検討する際に、本チェックリストの活用が考えられます。

2. グリーンロジスティクスチェックリストの全体構成

I 方針



II 活動

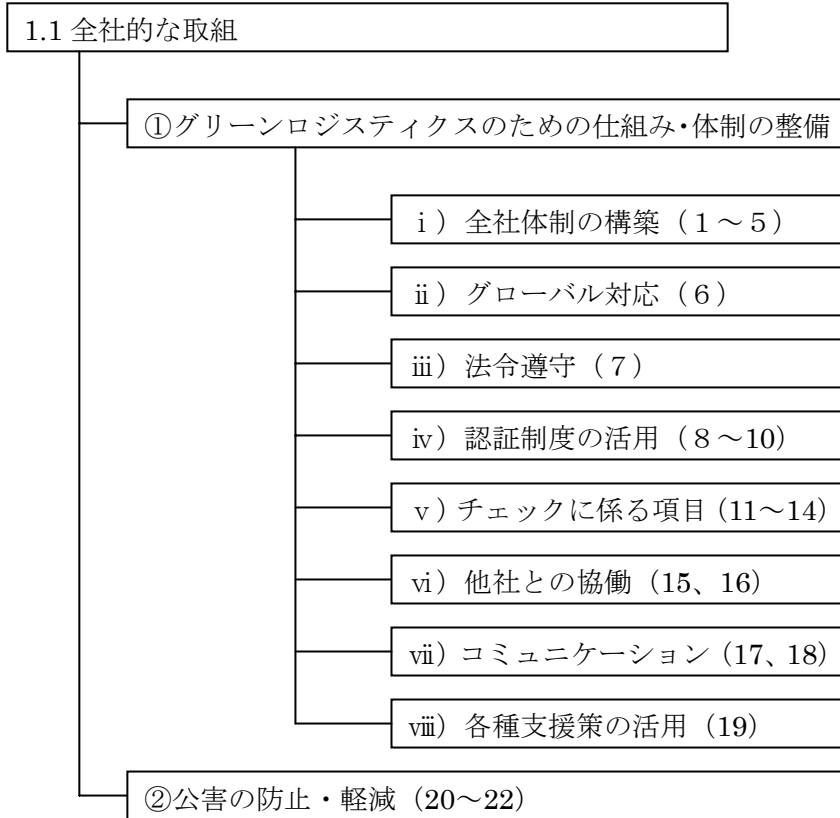


3. 各分類におけるねらい

I 方針

1.1 全社的な取組

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備

i) 全社体制の構築 (1~5)

環境対応は、環境部門一組織単独ではなく、全社的に取組を進める必要があります。そのためには、トップダウンでの活動が求められます。その発端として、トップのコミットメントによる環境方針を策定し、全社的な取組があることを従業員に認識させることが必要となります。

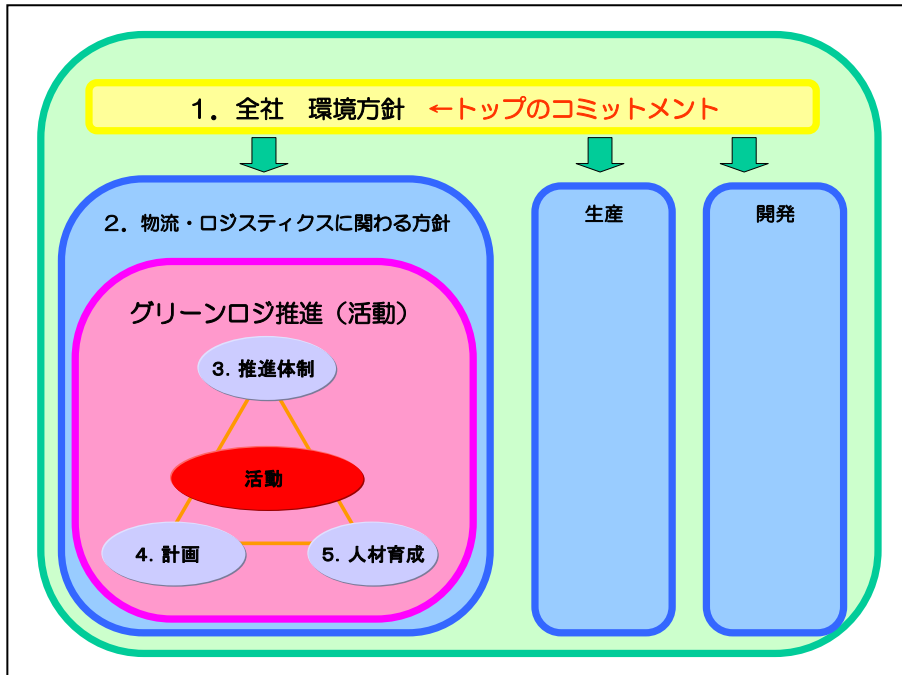
続いて、環境方針に基づき、物流・ロジスティクスに関わる方針を策定し、部門内への展開を図ります。

ただし、方針だけでは、具体的活動に結びつきませんので、具体的な計画立案、計画を遂行するための推進体制、そして人材育成が必要となります。

<チェックリスト項目>

1. 企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。
2. 環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。
3. グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。
4. グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。
5. グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育（人材育成）を行っている。

図表1 チェック項目1から5の体系イメージ



ii) グローバル対応 (6)

地球温暖化問題をはじめとして、主要な環境問題は地球規模で発生していることや、CSRの視点から、国内と同様に海外拠点や国際物流においても、積極的な環境取組が求められます。

<チェックリスト項目>

6. 海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。

iii) 法令遵守 (7)

業種や取扱商品によって遵守しなければならない法令が異なります。そこで、自社に関係のある法令を整理するとともに、関係する部門の従業員に周知、徹底することが求められます。

<チェックリスト項目>

7. ロジスティクス分野において、法令遵守（各種リサイクル法、過積載輸送の防止など）徹底に向けて取り組みをしている。

iv) 認証制度の活用 (8~10)

環境に関する各種認証取得及び維持を進めることで、社内におけるPDCAサイクルの構築が可能であることや、取引先からの評価といったことにつながります。

ただし、取得や維持の際に費用等がかかることもあり、本チェックリストでは自己宣言相当の活動も可としております。

<チェックリスト項目>

8. ISO14000sを取得している（自己宣言相当の活動をしている）。

9. エコアクション21を取得している（自己宣言相当の活動をしている）。

10. グリーン経営認証を取得している（自己宣言相当の活動をしている）。

v) チェックに関わる項目（11～14）

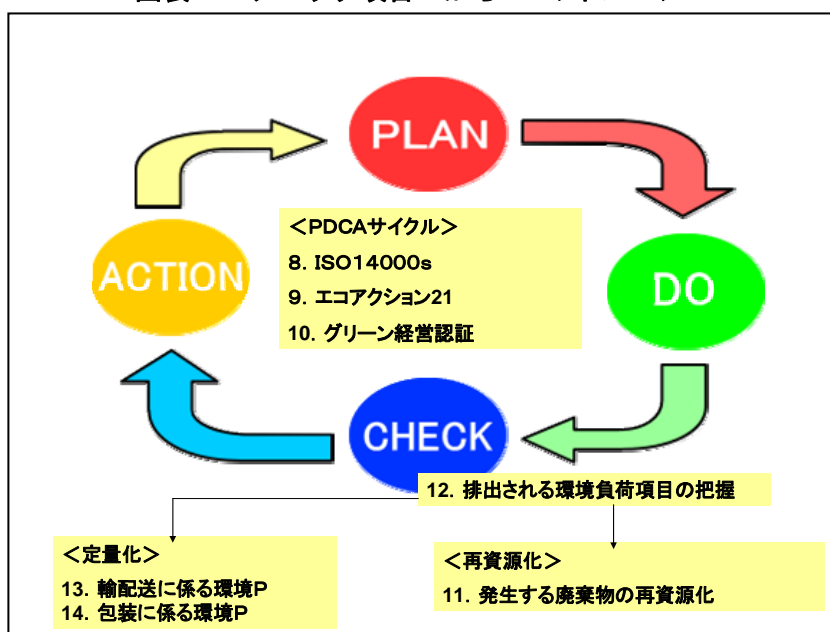
まず、自社の物流・ロジスティクス活動により、どのような環境負荷を発生しているか把握するところから始まります。続いて、それぞれの項目について、どの程度環境負荷を発生しているか、また削減施策の実施により、どの程度効果があったかを検証するために定量化が必要となります。

廃棄物については、物流センター等で発生するものを中心に、それらの再資源化に向けた取組が必要となります。

<チェックリスト項目>

11. 物流・ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。
12. ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。
13. 輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。
14. 包装に係る環境パフォーマンスを算定している。

図表2 チェック項目8から14のイメージ



vi) 他社との協働（15、16）

環境対応は“1社だけ”が取り組めばいいということではなく、“1社でも”多くの企業で取り組む必要があります。そのためには、自社のグループ会社、取引先、業界団体と共同での取組や、定常的に使用している協力会社（備車先等）への支援といったことにより、活動の輪を広げることが求められます。

なお、ロジスティクス環境会議でも、“環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす”ことを活動の主目的の1つとしております。

<チェックリスト項目>

15. グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体（自主行動計画など）と共同で取り組んでいる。
16. 協力会社（備車先等）に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。

vii) 環境コミュニケーション (17、18)

近年、企業においては、環境報告書、ホームページ等を通じて、「環境情報の開示」を進めております。ただし、一方的な情報提供のみならず、物流拠点等を中心に、周辺住民との対話といった取組も必要だと考えられます。

<チェックリスト項目>

- 17. 物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷（騒音、振動、ゴミ等）の軽減に向けた取り組みを実施している。
- 18. ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。

viii) 行政等の各種支援策の活用 (19)

環境対応は、多くのケースではコスト削減につながりますが、一部投資が必要なものがあります。そこで、行政や団体で行っている各種支援策を活用し、環境対応を積極的に進めることが考えられます。

<チェックリスト項目>

- 19. グリーンロジスティクスに寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。

② 公害の防止・軽減 (19～21)

環境基本法において、公害は、「大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭によって、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずること」とされております。

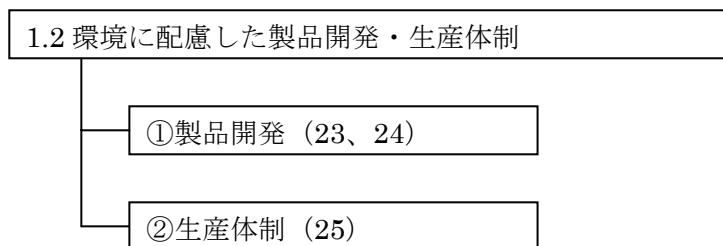
特に、物流に伴って発生する主要な公害としては、「大気汚染、水質汚濁、騒音、振動」であることから、これらの防止、軽減に向けた施策実施が必要となります。

<チェックリスト項目>

- 20. 輸送機関（トラック、船舶等）の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。
- 21. 騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。
- 22. 水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。

1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制

【本分類の構成】



【ねらいとチェック項目】

① 製品開発 (23、24)

物流部門において、積載率を向上させようとしても、もともとの製品の寸法の問題で、トラックを満載にすることができないケースがあります。

また、コストダウンをねらいとして包装材を削減した結果、輸送振動に耐えられず、商品が破損し、代替品の製造、輸送といったことによる環境負荷の増加につながるケースもあります。

したがって、環境負荷の低減を図るためには、製品開発時点から、物流についても考慮する必要があります。

<チェックリスト項目>

- 23. 輸送効率向上と包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。
- 24. 物流に関する記載が含まれた環境アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。

② 生産体制 (25)

生産側では、製造コスト削減という視点で生産計画を立てる傾向が強いと思いますが、必ずしも物流効率化と合致しないケースが多いと考えられます。

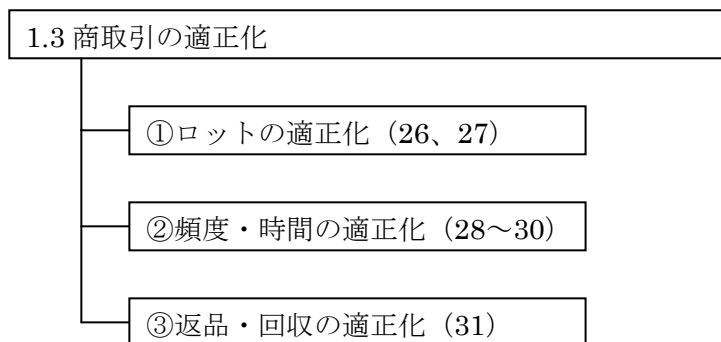
そこで、トータルで見て環境負荷低減につながるように、物流側からの積極的な提案が考えられます。

<チェックリスト項目>

- 25. 積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。

1.3 商取引の適正化

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① ロットの適正化 (26、27)

商品特性やリードタイムにもよりますが、一般的に、商品の買い手は、自社の在庫リスクを下げるためや、在庫回転率を上げてキャッシュフローを増やすために、多頻度小口発注する傾向があります。その結果、①小ロットの貨物の輸送、②取引数が物流単位（例えばパレットへの積載数）と合致せず、残った端数の輸送が発生し、さらにそれらを低積載率のトラックによる輸送となった場合、環境負荷の増加につながると考えられます。したがって、ロットの適正化に向けて、取引先と対話を行い、理解を求めていくことが必要と考えられます。

<チェックリスト項目>

- 26. 取引先と協力し、取引基準を設定（取引単位を物流単位と整合化するなど）している。
- 27. 取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。

② 頻度・時間の適正化 (28～30)

①とも関係しますが、多頻度小口発注による入荷トラック台数が増加し、かつそのトラックがある時間帯に集中すると、荷降ろしまで待ち時間が発生します。その結果、アイドリング発生によるCO₂増加といったことがあげられます。したがって、入荷トラック台数削減とともに、待ち時間の短縮となるよう、取引先と協力して工夫をしていくことが必要と考えられます。

<チェックリスト項目>

- 28. 取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し（延長）を実施している。
- 29. 取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。
- 30. 入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。

③ 返品・回収の適正化 (31)

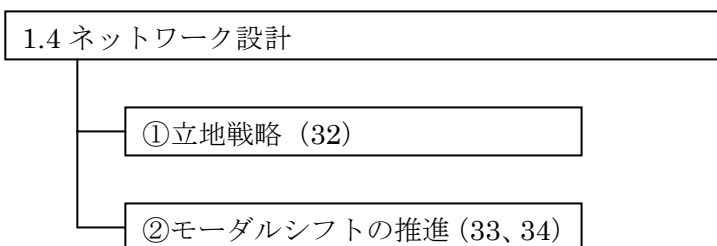
返品によって、返品にかかる物流の発生とともに、品質上で再販ができない商品については、廃棄処理が必要となり、環境負荷の増加につながります。したがって、取引先と協力し、返品抑制のための取り組みが必要となります。

<チェックリスト項目>

31. 返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約の見直し等の施策を実施している。

1.4 ネットワーク設計

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 立地戦略 (32)

拠点配置は、一般的に、コストやサービスレベルを考慮して、検討がなされますが、輸送距離（CO₂排出量）にも大きな影響を与えますので、それらの考慮が必要となります。また、②で記載しているモーダルシフトを実施する際には、鉄道駅や港の位置を考慮した立地選択も必要となります。

<チェックリスト項目>

32. 環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。

② モーダルシフトの推進 (33、34)

トラックと比べ、鉄道、船舶はトンキロあたりのCO₂排出量が小さい輸送機関であることから、積極的な利用検討が求められます。

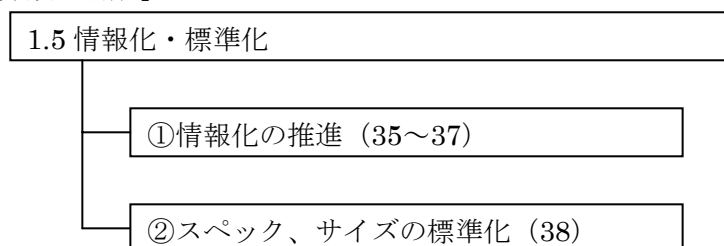
<チェックリスト項目>

33. 輸送に鉄道を利用している。

34. 輸送に船舶（フェリーを含む）を利用している。

1.5 情報化・標準化

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 情報化の推進 (35~37)

情報化を進めることで、業務の効率化による稼働時間の削減による省エネとともに、作業ミスによる無駄な輸送の発生やそれに伴う廃棄増といった環境負荷の増加を抑えることにつながります。

<チェックリスト項目>

- 35. 実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。
- 36. 標準物流EDI（JTRNなど）を利用し、配送伝票を電子化している。
- 37. 標準輸送ラベルを使用している。

② スペック、サイズの標準化 (38)

荷役の迅速化、積載率の向上が車両回転率の向上につながり、その結果、車両台数削減による環境負荷低減に寄与します。

<チェックリスト項目>

- 38. ユニットロードシステムを導入している。

1.6 共同化

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 共同輸配送の実施 (39)

積載率を向上させるために、他社との共同輸配送は1つの施策となります。特に、同一の得意先に配送する際には、納品先での入荷トラック台数削減にもつながり、結果として得意先周辺での大気汚染、入荷待ちによる渋滞の緩和にも寄与します。

<チェックリスト項目>

39. 輸配送回数の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。

② 保管施設の共同化 (40)

保管効率を高めることによって、物流センターで使用する電力等の削減が考えられます。特に、①も実施できると、その効果は大きくなります。

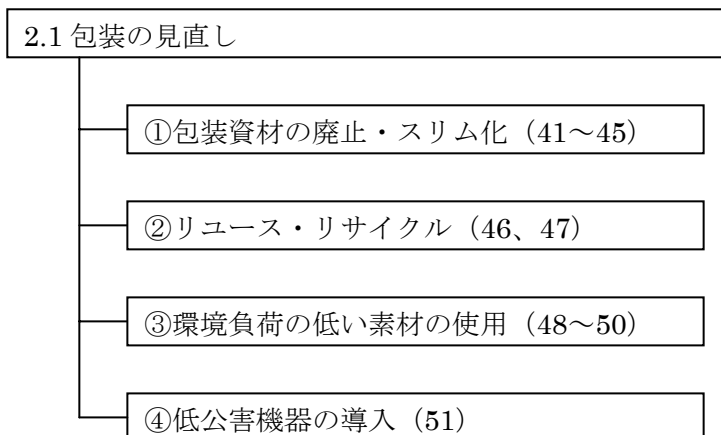
<チェックリスト項目>

40. 物流拠点を他社と共同で利用している。

Ⅱ 活動

2.1 包装の見直し

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 包装資材の廃止・スリム化 (41~45)

包装資材の使用量（INPUT）そのものを減らすことで、廃棄量（OUTPUT）も減らすことによる環境負荷低減をはかることが必要となります。また、45については、包装資材そのものの量は変わらないケースであっても、作業スペースの効率化による稼働時間短縮や、保管スペースの効率化の側面から必要となります。

<チェックリスト項目>

- 41. 使用包装資材を薄肉化、軽量化（段ボール紙質の軽量化 他）している。
- 42. 小箱包装を廃止して大箱にまとめている。
- 43. 取引先と協力して、包装を省略（無包装化、簡易化）している。
- 44. 包装形態を簡素化（クレート、ハンガー輸送など）している。
- 45. 未使用時も減容化しやすい包装材（折りたたみ式通い箱、組み立て式包装資材など）を採用している。

② リユース・リサイクル (46、47)

包装資材についても、使い捨てではなく、繰り返し使用することにより使用量を減らすことが求められます。なお、運搬容器等については、過剰投入の防止とともに、ある拠点での不足に伴う緊急輸送をなくすことが環境負荷低減につながるため、数量等の管理も必要となります。

<チェックリスト項目>

- 46. 運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。
- 47. リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。

③ 環境負荷の低い素材の使用（48～50）

使用している包装材の素材を把握し、再使用、再資源化、廃棄を考慮した素材に変更していくことが求められます

<チェックリスト項目>

- 48. 包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。
- 49. 再生素材を原料とする包装資材を使用している（バージン素材を使用しない）。
- 50. 有害物質を含まない包装資材を使用している。

④ 低公害機器の導入（51）

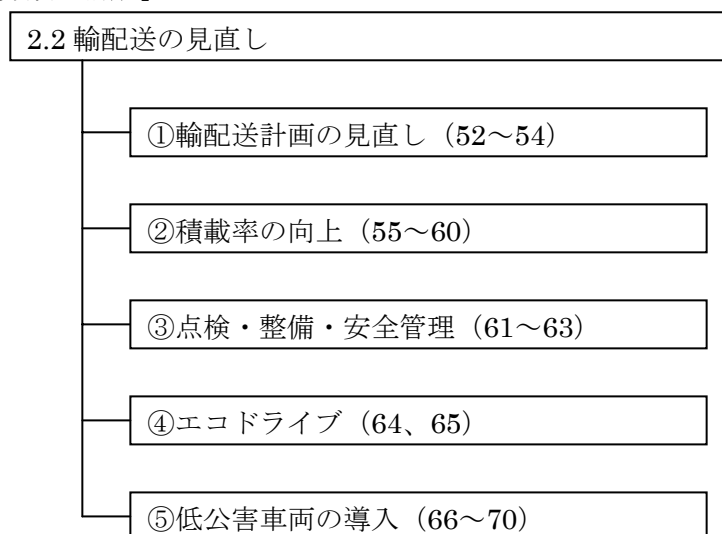
包装にかかわるハード機器等において、省エネや低公害を考慮することが求められます。

<チェックリスト項目>

- 51. 省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。

2.2 輸配送の見直し

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 輸配送計画の見直し (52～54)

配送先、物量等への変化にあわせ、輸配送計画そのものも見直しによるトラック台数の削減(=総輸配送距離の削減)によるCO₂排出量削減が必要となります。

<チェックリスト項目>

- 52. 現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。
- 53. 配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。
- 54. 輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。

② 積載率の向上 (55～60)

トラック1台あたりの積載率を向上させることによるCO₂排出量削減が必要となります。主に、他社との共同輸配送による荷量の増加や、積載方法の工夫等があります。

<チェックリスト項目>

- 55. 帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。
- 56. 輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。
- 57. 得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。
- 58. 調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。
- 59. トラックの大型化・トレーラー化により、便数を削減している。
- 60. 車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。

③ 点検・整備・安全管理 (61～63)

トラックの整備状況によって、実燃費の値が変わり、その結果CO₂排出量に影響を与えます。そこで、日常の点検・整備等も重要となります。

<チェックリスト項目>

- 61. タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。
- 62. エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。
- 63. 排気ガスの色を目視で確認している。

④ エコドライブ (64、65)

トラック輸送における燃費向上の大きな施策として、エコドライブを推進していくことが必要となります。なお、エコドライブは、環境（燃費向上）のみならず、安全や輸送品質の確保、コスト等の面からもたいへん重要な取組となります。

<チェックリスト項目>

- 64. エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。
- 65. デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。

⑤ 低公害車の導入 (66～70)

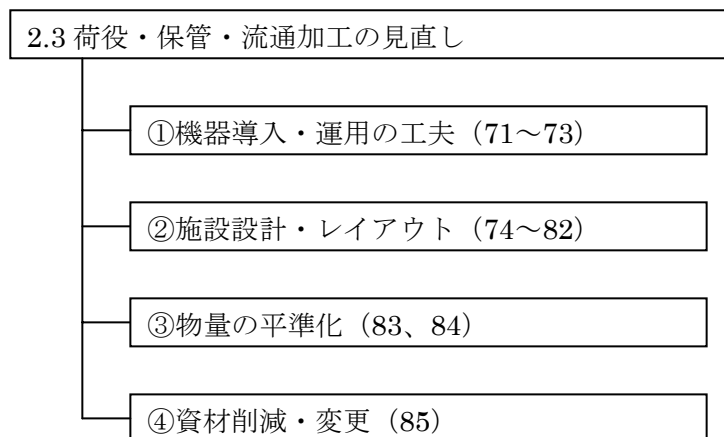
ハード対応による燃費向上やCO₂排出量削減も検討すべき事項となります。

<チェックリスト項目>

- 66. クリーンエネルギー自動車を導入している。
- 67. 最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。
- 68. エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。
- 69. エコタイヤを導入している。
- 70. バイオマス燃料を利用している。

2.3 荷役・保管・流通加工の見直し

【本分類の構成】



【ねらいと項目】

① 機器導入・運用の工夫 (71~73)

省エネ型、低公害型機器の導入とともに、機器の効率的な使用による稼働時間の削減による電力使用量の削減等が求められます。

<チェックリスト項目>

- 72. 環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。
- 73. 効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。
- 74. 環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている

② 施設設計・レイアウト (74~82)

主としてレイアウトの工夫により、作業効率の向上による稼働時間の削減による電力使用量の削減といったことが必要となります。また、冷蔵・冷凍倉庫では、温度を下げるために多くの電力を使用することから、外気侵入防止、過剰冷却防止による省エネとともに、オゾン層破壊や温暖化につながらない冷媒の使用が望まれます。

<チェックリスト項目>

- 74. 物流量の変更並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。
- 75. 入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。
- 76. 積みおろしに伴う待ち時間のアイドルングを防止するため、ドライバー控え室を設置している。
- 77. 電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。
- 78. ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。
- 79. 荷物積みおろし中の冷凍車のアイドルング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。
- 80. 冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン（HFC）や自然冷媒を使用している。
- 81. 冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫をしている。
- 82. 冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている。

③ 物量の平準化（83、84）

保管効率を上げ、省スペース化による電力使用量等の削減が必要となります。

<チェックリスト項目>

83. 入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。

84. 不動在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。

④ 資材削減・変更（85）

流通加工で用いる素材について、環境負荷の少ないものを選択することが求められます。

<チェックリスト項目>

85. ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している（グリーン購入）。

ロジスティクス環境会議 今後の活動（予定）

1. 第2期活動について

1) 第3回本会議、懇親パーティー

2008年3月11日（火）14:30-16:30 第3回本会議
16:40-18:00 懇親パーティー

- * 本会議については、代表登録者宛に開催案内送付済
- * 懇親パーティーについては、委員会メンバー含めて開催案内メール送付済

2) 会員研究会「グリーンロジスティクスのすすめ」

(1) 講演者

下村 博史 氏（㈱日本総合研究所 研究事業本部 上席主任研究員）

*ロジスティクス環境会議 企画運営委員、グリーン物流研究会 幹事

(2) 日時及び開催地

2008年3月5日（水） 福岡
2008年3月12日（水） 東京
2008年3月19日（水） 大阪
2008年3月25日（火） 名古屋

3) その他（2008年春頃予定）

- ・グリーンロジスティクスガイド第2版 ←完成版のチェックリスト（項目のみ）に差替
- ・CGLジャーナル

2. 第3期活動について

- ・1月28日（月）開催の第7回企画運営委員会で第3期実施することが承認
- ・活動期間としては、2008年5月～2010年3月を予定
- ・詳細については、3月11日（火）の第3回本会議でご案内予定
（1研究会、2委員会設置予定。ただし、委員会テーマについては、要検討）
（グリーンロジスティクスチェックリスト調査については、WGで実施予定）

以 上

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第11回源流管理分科会 議事録

I. 日 時：2008年1月30日（水） 16：00～19：00

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：11名

IV. 内 容：

1) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

1) チェックリストについて

事務局より資料1に基づき、第10回分科会以降の経過について説明がなされた後、資料2-1、2-2、2-3、2-4に基づき、チェックリストの評価軸項目について検討が行われた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

(チェック項目 25)

幹 事：『出来てない』の“取引先はおろか”は、“取引先だけではなく”の方が表現として適切だと考える。

(チェック項目 28)

委 員：“貨物車”よりも“納品車両”の方が分かりやすいと考える。

委 員：本項目は出荷も該当することから、“車両”の方がよいと考える。

委 員：『よく出来ている』を“貨物車を定刻化し”を“車両の接車時間を定刻化し”に修正した方がよいと考える。

(チェック項目 29)

委 員：物流事業者では、荷主に対し“売買契約”の変更といった提案まで行うことはできない。

幹 事：チェック項目を“売買契約（納品条件）”とした方がよいと考える。

(チェック項目 55)

幹 事：チェック項目 52、53、54 以外でも、輸配送計画の見直しによる環境負荷低減につながる施策はあるのではないかと考える。

委 員：チェック項目 55 は、納品条件見直しに絞った内容であり、これはチェック項目 25 から 28 に包含されることから、削除してもよいと考える。

(チェック項目 34)

幹 事：『遅れ気味で努力不足』の“部門単独”では、物流部門だけで取り組む印象を受けることから、“部門単位”の方がよいと考える。

事務局：『出来ていない』の“需要予測の仕組みが機能せず”では、システムを導入しているが機能していないという印象を受けることから、“需要予測の仕組みがなく”に変更してはどうかと考える。

(チェック項目 35)

幹 事：小規模の企業では、E D I 導入率は低いと考えられる。したがって、原案のままでよいのではないか。

(チェック項目 36)

委 員：S T A R ラベルはほとんど普及していないことから、“標準輸送ラベル”だけの方が分かりやすいと考える。

委 員：ラベルを貼る位置も標準化されていると読み取り等が効率的となるが、本項目には含めなくてよいと考える。

(チェック項目 37)

幹 事：一貫パレチゼーションの数字があるが、実体と乖離している印象を受ける。

幹 事：ユニットロードの中身として、コンテナ、パレット、通い箱それぞれ考えられる。

事務局：客観的な数字はないことから、原案どおり 1 項目でよいと考える。また、通い箱の使用に関しては、チェック項目 46 が該当する。

(チェック項目 38)

幹 事：共同輸配送の定義や範囲を厳密に考えると、項目をそのままにしておくべきか悩ましい。

事務局：チェック項目では“輸配送回数”となっているが、“輸配送車両”の方がふさわしいと考える。

(チェック項目 81)

委 員：フロンを使用する以前はアンモニアを冷媒として使用していたこと、H F C は温室効果ガスであることから、“ノンフロンを冷媒として”の方がふさわしいと考える。

幹 事：実態に即している“代替フロンや自然冷媒”のチェック項目の方がよいと考える。

(チェック項目 (82))

幹 事：外気の遮断だけではなく、省エネ型の照明の設置等も含めた内容にしてはどうか。

事務局：チェック項目 79 に省エネ型の照明に関する項目がある。

委 員：『まずまず出来ている』は“エアカーテンやドッグシェルター”とした方がよいと考える。

幹 事：『よく出来ている』の“半数以上”はレベルとして低い印象を持つ。“積極的に取り組んでいる”といった内容に変更してはどうか。

幹 事：チェック項目 77 をチェック項目 80 の後ろに変更し、冷凍関係の項目をそろえた方がよいと考える。

(チェック項目 (83))

事務局：『遅れ気味で努力不足』の“倉庫業者と相談し”は“荷主と物流事業者で連携し”に修正したい。

(チェック項目 83)

委 員：物流事業者側では難しい内容であり、現実的にはチェック項目 84 の施策を実施することになるのではないか。

幹 事：チェック項目 84 は、処分せざるをえない在庫の処理による保管スペースのコンパクト化であり、チェック項目 83 とは異なる内容と考える。

幹 事：生産、営業部門と連携し、波動対応、商品の組み合わせ等の工夫といった、プランニング部分での対応を促す項目としてはどうか。

委 員：『遅れ気味で努力不足』『まずまず出来ている』の“あるいは荷主”は不要ではないか。

(チェック項目 73)

幹 事：『まずまず出来ている』の“効果が出始めている”は、“実施している”に変更したほうがよいと考える。

(チェック項目 56)

幹 事：『出来ていない』は“計画的な活動は実施していない”、『よく出来ている』は“求貨求車システムへの登録や荷主への働きかけ等”に変更してはどうか。

幹 事：チェック項目を“帰り荷の確保のための工夫（求貨求車システムの導入等）をしている”としてはどうかと考える。

(チェック項目 51)

委員：海上コンテナを対象に素案が策定されているが、鉄道コンテナ等も考えられるのではない
か。

委員：規制に適合したコンテナを荷主に提供することは、船会社の義務であり、荷主等が勘案す
ることではないと考えられることから、項目として削除してもいいのではないか。

事務局：ご指摘のとおりである。また、中分類の“包装の見直し”の全体を見ると、本項目だけ性
質が異なることから、削除したい。

(チェック項目 31)

委員：本チェック項目の“環境負荷”は、地球環境問題、地域環境問題のどちらをイメージして
いるか教えていただきたい。

幹事：本チェック項目では、地球環境問題である。

委員：コストの検討をすることで、必然的に輸送距離短縮による環境負荷低減につながっている
と考える。

事務局：トラック輸送だけで考えればご指摘のとおりだが、鉄道や船舶利用を踏まえた拠点配置検
討といったことも想定される。

幹事：評価軸の項目を考えると、“環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている”の方がふさわ
しいと考える。

(新規項目「行政による支援策の活用」)

幹事：資料 2-4 の事務局案では、支援策の把握の度合いだけが評価軸となっている。活用の度
合いを加味した内容に変更すべきと考える。

(今後の進め方について)

幹事：本日の検討で、全ての項目が決定したが、一部修正した方がよい表現等があると思うこと
ので、次回会合で検討したい。

事務局：本日の検討を受けてリバイスしたチェックリストをメール送付するので、ご確認いただき
たい。

幹事：同じ設問であっても、荷主と物流事業者で捉え方が異なるケースが出てくるのではないか。

幹事：評価軸の他に“該当しない”という選択肢を設けることで対応してはどうかと考える。

【決定事項】

- ・チェック項目 25-29、34-39、56、73、81、83 の評価軸が確定した。
- ・チェック項目 51、55 を削除する。
- ・チェック項目 82 を、(82) (83) の 2 項目に変更する。
- ・行政の支援策に関する項目を策定し、チェック項目 18 と 19 の間に入れる。
- ・チェック項目 77 を 80 の後ろに移動する。
- ・上記修正を加えたチェックリストをメール送付するので、ご確認いただき、修正意見等あれば次
回会合前までに意見をいただくこととする。

2) アウトプットについて

事務局より、別紙に基づき、第 3 回本会議でのアウトプット（案）について説明がなされ、次
回会合までに内容を確認いただくこととなった。

3) 今後の進め方について

第 12 回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：2008 年 2 月 21 日（木） 16 時-18 時

会場：JILS 小会議室

詳細については、別途事務局から連絡することとなった。

VII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了した。

以 上